

全員協議会

平成27年11月17日(火)

伊達赤十字病院への財政支援について

伊達赤十字病院の経営状況について病院から示された収支バランスの説明がなされました。それによると入院診療報酬の増収などがありますが、今年度も医師不足の影響が大きく、収支で約4.2億円の赤字が想定されることがわかりました。質疑では、病院側の経営努力の取り組みや接遇問題の改善などが話題となりました。

平成27年12月8日(火)

西いぶり定住自立圏共生ビジョン改訂について 伊達市公共施設等総合管理計画(案)について 水産系雑物の処理について 大滝区定住促進住宅整備事業について

以上4点について、各担当課長から説明がありました。特に公共施設管理計画については、旧耐震基準(昭和56年以前)の市内公共施設は24.1%を占めていることや、今後50年間で順次老朽化への対応を進めていくとした場合、総額606億円がかかる計算となったこともわかりました。市長はこれに対して、「単純に積算すると大きな数字となったが、長寿命化を図り、老朽施設を統廃合していくことで、このような数字にはならないと思うので、そのための管理計画として活用を図っていききたい」と答弁しました。

また、水産系雑物の処理については、平成27年の夏以降ホタテ貝1トンに対して2トンの水産系雑物が付着していることが報告されました。これにより今年度の見込みではホタテ水揚げ量が前年に比べ22%減少するにもかかわらず、付着物量は242%増加の見込み。この大量の水産系雑物の処理に対して、「堆肥センターの処理が追いつかず、石川町のゴミ処理場での処分を進めたが、悪臭がひどく現在は一時中断となっている。この対策に向けて八雲町の堆肥センターへの搬入を協議する」との報告がされました。この経費については、同じように困っている洞爺湖町、豊浦町と足並みを揃え、漁協との負担割合を協議して、今後の議会で補正予算案が提出されることになりました。

伊達市がん対策 推進条例の 制定について



「伊達市がん対策推進条例」を平成27年第4回定例会に伊達市議会初の議員提案による政策条例として提出し、平成27年12月11日に全会一致で原案のとおり可決しました。

条例の内容は、市の責務として関係する機関等と連携を図りつつ、がんに関する正しい知識の普及等に努めることや市民の役割としてがんに対する正しい知識を持ち、がんの予防に努めるとともに、がんの早期発見及び早期治療に努めること。

また、がんの予防及び早期発見の推進として、市は関係機関と協力して、がんの予防及び早期発見に資するため、がんに関する知識の普及啓発に努め、がん検診の受診率の向上などに努めることなどを定めておきます。なお、この条例は平成28年4月1日から施行されます。